

第2回地域連携部会

日時：令和4年1月13日（木）16:00～16:30

参加者：阿部力、北瀬淳子、桐谷鋼哉、菅野光弘、國島嘉子、川瀬セツ子

桐谷：では、時間も限られていますが、その中でも実りのあるものにしたいと思っています。資料はクリップ止めの最後についています。第3回学校運営協議会、地域連携部会をご覧いただきたいと思います。

この部会は5月に一度開かせていただいております、今回2回目ということになります。1回目のときも申し上げましたが、この部会の狙いといいますのは、その名の通り地域の教育力をお借りして、旭高校の生徒を主体的に活動できる人材に育てていきたいというのが大きなコンセプトとなります。その中で1,2とテーマを設定させていただいて、どちらかといえば下の方の2番に力点をおいて旭高校は地域と連携しながらボランティア活動に取り組んでいきます。第1回の地域連携部会でもお話させていただいたところです。

どうしても、コロナの状況で夏に大きな山がありまして、落ち着いたと思ったら、また、年明け不透明な情勢ということで、なかなかやりたいというのがあっても、関われないという部分があって、とにかく難しい部分ではあるのですが、今年度できているところというと、川井地区ケアプラザでの学習サロンは、回数は例年より少ないのですが、実施はできているということで継続していきたいです。

コロナ前ということになりますと、過去事例の一例に過ぎないのですが、旭警察と連携した非行防止教室、防犯教室をここ何年も続けてやってきて、希望ヶ丘小学校2,3年生177名が参加している前で、旭高校の生徒・職員、警察の方々と連携して、寸劇あるいは紙芝居を見せるわけですね。お互い刺激しあってコミュニケーション能力を高めるなどを行ってきました。そのあたり簡単に今までの流れというか様子を國島先生からお願いしたいと思います。

國島：ここ2年活動できていないのですが、警察の方と協力し合って小学生に向けての防犯教室・万引きが中心なんですけれど、万引き防止教室をやった後にやっていいことわるいことでこれらの事例を寸劇にして小学生に寄与して啓発運動してまいりました。

桐谷：一つの例ではあるのですが、ほかのボランティア活動にも沢山かかわってきては居ります。ただ、コロナの感染状況も波打ちますので、来年度になったら大丈夫だとは言い切れない。いかにやってきた、今まで積み重ねてきたことを継承していくかというところで、皆様のアイデアを活かすことができるのではないかと考えます。コロナ禍でも持続可能なボランティア活動というところで。

國島：防犯教室の活動については警察の方と相談して、いわゆるDVDに生徒の寸劇を取

めてそれを小学校で上映してもらう形をとって、できましたらそこで、小学生の様子をこちらリモートで拝見させていただいてどのような反応か見させていただければ、それ以降にも活かせるのかな、まずは学校に赴くのが問題なので、いかなくても啓発運動が何かしらできないかということ、今後警察と相談して、かかわっていきたいと考えています。

桐谷： オンラインを活用しながらということですね。

國島： はい。オンラインです。小学校さんによってはアットホームで、一学年がこの応接室のスペースで入るくらい人数もあるので、小さい規模のなかでも距離感を縮められたらなどは考えています。

桐谷： 防犯教室に限らないのですが、この情勢におけるボランティアあり方についてアドバイスをいただければと思います

阿部： 私、幼稚園経営しているんですが。もう少し高校生が入ってきてくれるといいかなあという感じがするんですよね。今のうちの方でもいろいろやってるわけですけども、たとえば普段のなかでは基本的には、終わった後とか預かり保育、あとは未就園児、ようするに幼稚園入る前の園児を集めて、その時は基本的にはお母さんが連れてきてお母さんに基本的にやってもらう。あとは、園庭開放、それは小学生でもお母さんと小さいお子さんと自由に使ってくださいという形でやっているのですが、やるのはいいのですが、ただ、そういう中で、もうすこし小さい子を面倒見たり、こういう年齢ならこういうことができたりだとか、高校生の考え方も経験すると違うかなあと思っています。ここでも、おたすけ隊とか、町を起こす企画立案もはっていますからね。そういうものもいれてもらえると希望する高校生がいれば、高校生にとっても良いかなあと思います。

國島： ぜひ、お声をかけていただければと思います。

阿部： 日程的なものもつめて、機会の中でやっていければいいなと思います。

國島： コロナ禍が明けたらぜひ参加させていただきたいと思っています。コロナ禍の影響で、ホームさんで行うことだったりお祭りを手伝おうことであったり、いろんな会議も参加していましたが、ほかのところもすべてダメになってしまったので、コロナが早く開けてもらえればぜひ積極的に参加させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

北瀬： うちもかなり外に出ていく活動を自粛しております、本当に地域にとどくというのが少なくなっています。私も着任して2年で、今までと全く違うようになっていけるのもあるのですが、その中でなにかできないか考えています。先ほどの

DVDの寸劇はとても良いと思いました。ICTを活用してオンラインでつないで、うちで今やっているのは、デイサービスと、発表です。人数制限しているのですけれど、余暇活動の音楽を流すとか、サロンの発表の場が少ない方たちは、広いところをとってそれをデイサービスだけに流すという具合です。今まで9組くらいの団体の方が発表してくださったので、そのなかにたとえば吹奏楽の生徒とか、発表する生徒が来ていただいてデイサービスで発表するのも一案だなと思います。

あと、今、“まぜこぜ音楽会”というのが、障害ある人でも、赤ちゃんからお年寄り誰でもごちゃまぜに集うというもので、当初、3か月か4か月に1回という目論見だったんですけど、結構出演したい人とか、車椅子の方が消毒してくださったりするボランティアの場でもあって、そこに視力障害の方でも参加していただいたりとか、本当にだれもが参加できる所に、たとえば高校生に発表してもらおうというふうにもお手伝いできるかと思いました。

また学習サロンでは継続していただいてありがとうございます。逆に職員から言われてきたのが、なにか困ってらっしゃることとか、お手伝いできるところで学習サロンの打合せとか必要ありますかとか聞いてきてほしい、といわれました。

國島： 今のところ、コロナ前は交流が必要ということで卓球大会をやっていたみたいなんですけれど。うちの生徒は出番もなく月1回だったんですが、逆に、コロナでレクリエーションがないということで、月2回学習のほうになっているので旭高生が月2回行かせていただく形になっているんですね。

生徒さんの質もかわりましたよね。小学生もね。熱心に本当に。ちょっと違う方向の生徒さんが集まっているときにどうしようかなというときに多分卓球大会になっていたんですけど。はじめ旭高校の生徒が月2回やるのに参加していたのですが、1回はいつでも卓球大会になってしまうので、勉強は違うのですねってことで、勉強の時だけに参加ということで月1回になったんですね。ですが、コロナ禍になったのでそのレクリエーションがなくなって2回とも勉強になるということで、月2回参加になったんだと思います。

北瀬： はいわかりました。なんか、話し合いが必要でしたら相談してください。よろしくお願いします。

桐谷： 資料の2番のところですが、1番も2番も関連していますので。丸のポチ一つ目ですが、つまり、高校生が地域の方の力になれないか。困っている人を助けられないか。逆にそうすることで、高校生には異世代間との交流と思いやりの気持ちですとか、自己有用感ですとか、癒しのことができるという、Win-Winの関係が築いていければと思います。

5月にこの部会では北瀬さんからは地域の連合の会議に実際に高校生が加わるとよいのではないかとご提案いただき、週末のときには阿部さんからは選挙のお手

伝いに高校生が関わることができればというような話をいただいています。そういった例をここには少し挙げてみたのですが、ここにお話しするだけではなくやはり実現に移して行かなければダメなのかなと。具体的にいつから、どういう活動を始めますよという流れを我々がつくって行かなければならないのかなと思っています。というあたりで、実現可能なもの、すぐにでもというものをという言い過ぎですが、できるだけ早い高校生と関わっていく何かがないかというところでしょうか。

阿部： 機関の中にどういうことがあるか？高校生がどういう風に参加できるか？など、お互いに予定があると思うので、それをすり合わせながら、機会を作っていけるといいなと思います。やることが大事ですね。

國島： やることを前提として、空いてる隙間でどこまでできるかというのを詰めていくのがまず第一歩ですね。

阿部： それしないとね。たとえば今、川井地区では交通事故が多い。特にお年寄りとバイクの事故が多く、自転車の窃盗や自動車の部品盗難などがある。そういう中で話をして、自分たちは気を付けているけど、もっとこういう風にできないかなど、もう少し行動を上乗せできるともっといいなと思います。例えば、東名のインターがすぐ近くで、スピードの感覚がのこってるから、事故が起きるんだろうとか。そういうところを何か形にできればいいなと思います。

國島： 高校生が自転車で帰る際に、「パトロール中」の札を掲げ通行する。そうやって警戒させて、困っている人や不審者をを見つけたり話しかけたりする。こういうのをできるところからやっていければいいですね。そうすると「地域として気を付けているんだ」という意識が出る、そうできれば、地域に貢献できると考えています。

北瀬： 連合にどんな団体があるかを、みなさんはよく知らないと思います。パトロールしてくれている人たちが実は色々やっています。下川井の方では、神社に行くまでのゴミ拾いをしたりしている、そういう地域の人たちの活動に高校生が入るのも一つの手だと思います。それを、どういうときにどういう予定があるかを話してもらえると参加しやすいのかなと思いました。また、うちのほうではたくさんボランティアに来てもらっています。例えば、ガーデンプロジェクトって言って、ケアプラザの前の花壇の草を月1回抜いてもらったり、この間は連合の会長が草むしりをしてくれ、ありがたい地域だと感じています。車椅子の人達ができる範囲のボランティアをしているという姿を見て、一緒に活動していくのはすごく勉強になるし、やりがいを感じると思います。その方はパラリンピックのボランティアをしていた、

地域のためになにかやりたいという人です。とても意欲があるので、話をきいたりして参加するのもいいのではないのでしょうか。「そのためにはケアプラザってなんだ」を知ってから、ボランティアに参加してもらい、その先へ進んでいくのがいいのではないか、日時のすり合わせをより具体的におこない、定期的にできたらいいなと思いますね。

桐谷： 困った人を助けたいというのを詰めてやっていくとして、組織的に動きやすいのは部活動ですかね。

阿部： 中学校のほうでは、「クリーン作戦」を年1回やっている。それに参加する中学生は部活動生が多いです。約400人くらいが参加しています。

桐谷： あとはイベントのサポーターなどでしょうか。

國島： 前は夏祭りのお手伝いで参加してましたね。ダンス部が踊ったりしていました。

北瀬： 今年も飲食をともなうものでの開催ができないのであれば、おそらく断念すると思います。

國島： 老人ホームの方でも同様にボランティアをおこなっていたが、飲食を伴うものとのということで今年も中止でした。

桐谷： 企画・立案というのもでてくるんですが、これを高校生主体でやれるよう考えていくと、探究活動にもつながるのではないかと思います。どういう工夫ができるか等を考えさせ、自分たちで実行・運営して、フィードバックできる流れができると理想ですかね。

北瀬： DVDは万引き防止ということですが、振込詐欺やオレオレ詐欺でもできそうですかね。

國島： 都岡の方の老人会でもやらせてもらったことがあるので、DVDでよければ、警察の方とタイアップしてできると思います。

北瀬： 旭区はオレオレ詐欺が多いので、撲滅するために旭警察も頑張っているが、なかなか下がらないです。そこで寸劇をしていただけると、詐欺理解に繋がったりします。自由なとき、ちょっとした合間にできるため、コロナ禍であってもできるかなと思います。

國島： 川井地区の防災訓練もだめだったので。

桐谷： この話を、この場で終わらせないで、今後実際に実行できるようやっていきたいと思っていますので、今後ともご協力をお願いいたします。次回はまた3月に開催されますので、その間に互いに行事予定等で照らし合わせたりして、次回に提示できるようにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

阿部： 旭だより等の地域の新聞に予定を盛り込めるといいですね。「機会を確保しました」というような紹介をしてもいいかなと思います。報告だけで終わってしまっているように感じます。

川瀬： 実際に動いている部署と作成している部署が違ったりするので、情報をお互い連携して、整理し、出していきたいと思います。

桐谷： それでは以上とさせていただきます。本日はありがとうございました。